

第28回 支店長のわがまち紹介



茨城県那珂郡東海村

若い世代が安心して働き、子どもを産み育てることができる東海村をつくる

イモゾーファミリーラッピングバス 写真提供：東海村

茨城県内の44の市町村を、それぞれにゆかりのある筑波銀行の支店長がご紹介します。第28回は、東海村です。筑波銀行は、村内に営業店を設置し、東海村の皆さまと密接な関係を築いています。東海支店長の伊東慎也が、東海村長 山田修氏、村長公室広報広聴課長 海野健氏にお話を伺いました。

●東海村が一番と考えていること、自慢できることはなんですか

原子力のまちという特徴が定着しています。昭和32年に現在の日本原子力研究開発機構（以下、JAEAとする。）の東海研究所が設置され、日本最初の原子炉が稼働しました。その後、日本原子力発電や東京大学大学院など12もの原子力関係事業所が集積しています。その一つであるJAEA原子力科学研究所の大強度陽子加速器施設（J-PARC）では、広範な分野での新たな研究開発の進展が期待されています。

平成26年度の財政力指数は茨城県内第1位の1.41です。この財政力を活かして、さまざまな施策を実施しています。

特に、子育てに関する施策はかなり手厚く実施しています。0歳から中学3年生までの子どもの医療費を助成し、自己負担なしで医療サービスを受けられます。また、県では小学校1、2年生のクラス

の人数を35人学級としています。村では児童一人ひとりへのきめ細かい学習指導を行えるよう30人の少人数学級を編成しています。そのため、県で採用している教職員だけ

では足りなくなることから、村が独自に教職員を採用しています。今年度は子どもの数に合わせて5名採用しました。

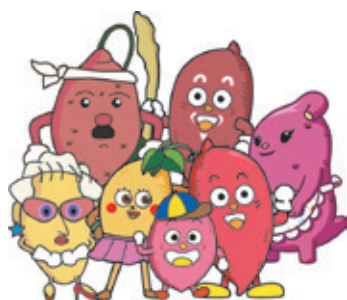
子育てに関する施策が充実していることは、住民が村に移住する大きな理由になっています。近隣の自治体に勤務地があっても、住居は村に構える人が多く、村の人口は増加しています。今後は、県外からも移住してくれることを期待しています。

最近の話題では、村内在住の高校生へのアンケート調査で、「東海村に愛着がある」と回答した人の割合が48.3%と他市町村と比べて突出して高く、「どちらかと言えば愛着がある」を合わせ、「愛着がある」と回答した人の割合が86%を超えました。村長として、大変嬉しい結果であり、全ての村民の誇りであると感じています。

●今後の展望についてお聞かせください

「まち・ひと・しごと創生」の“人口ビジョン”と“総合戦略”の策定を進めています。将来に向けて活力ある地域社会を形成していくためには、若年世代の人口を確保していかなければなりません。若い世代の方々が、「安心して働ける」「安心して子どもを産み育てられる」環境を整えていく必要があります。

総合戦略では、特に「しごと」に重点を置いて進めたいと考えています。原子力関連施設の現場で施設を維持管理、運転管理する技術者不足が深刻になっているのを踏まえ、村が原子力事業所に



イモゾーファミリー
写真提供：東海村

働きかけ、人材育成等の支援策を検討する「原子力人材育成・確保協議会」を立ち上げたいと考えています。来年度以降、合同での就職説明会や共通の研修プログラムの実施などを行い、原子力施設の安全確保のほか、原子力人材育成拠点の形成や新しい産業の創出、雇用にも繋げたいと考えています。

また、JAEAが所有していた「リコッティ」が国の方針により売却・処分の対象施設とされていましたが、これを村で購入しました。今後は地域



リコッティ 写真提供:東海村

活性化の拠点としての活用を考えています。「まち・ひと・しごと創生」の話もありますので、創業を目指す（または創業初期の）事業者

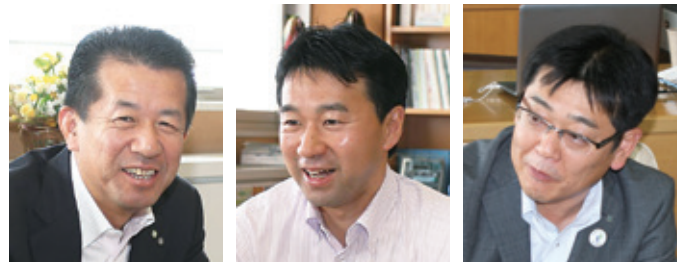
に安価な料金で貸し出せるレンタルオフィスとして活用していきたいと思っています。今年度から、ひたちなかテクノセンター内に村専属のコーディネーターを配置し、村内の商工業者や中小企業に対する支援を行っていますので、これらを連携させながらサービス業やベンチャーなどの新しいビジネスを展開したい人向けの支援を実施します。

その他にも、国が実施している政府関係機関の地方移転募集について、県は県内に誘致を希望する研究機関を国に提案しました。村は「理化学研究所 光量子工学研究領域」の移転先として国に提案されています。実現すれば、J-PARC、県、東京大学の研究機関などすでに村にある研究機関との連携により、学術面、産業面ともに国際競争力の強化につながる事が期待されます。

「ひと」については、女性が生き生きと働くことができる環境づくりや、子育てに優しい環境の整備にこれまで以上に取り組み、若い世代が安心して子どもを産み育てることができる東海村の実現を図ります。「お母さんにやさしい国ランキング」第1位のフィンランドでは、子育て支援シ



子育てママ「母と子のサロン」 写真提供:東海村



山田村長

海野課長

伊東支店長

テムである「ネウボラ」が進められています。村でも妊娠期から子育て期に至るまでの包括的な相談・支援体制を整備した「とうかい版ネウボラ」の実現に向けた仕組みづくりを進めています。

「まち」については、国道245号線の4車線への拡幅が進められています。村の観光スポットである大神宮や村松山虚空蔵堂と阿漕ヶ浦公園へのアクセスも便利になります。幹線道路を拡幅すると通過されるだけになってしまうこともありますが、そうならないように、2カ所の観光スポットをつなぐ動線を整備し、周遊観光ができるようにすることも考えています。また、阿漕ヶ浦公園は2019年開催の茨城ゆめ国体のホッケーの会場になります。国体会場としての整備を着実に進めるとともに、今後はスポーツ合宿などにも活用し、新たな集客を図っていきたく考えています。

●筑波銀行に期待することはなんですか

自分の技術を基に創業しようとする人は、独自の技術により自分が良いと思う商品をつくれれば売れると信じているプロダクトアウト的な考え方の人が多いものです。一方、金融機関は消費者側に立った目線で商品や事業を見るマーケットイン的な力があると感じています。この力を活かし、小規模な企業に寄り添った活動を行ってほしいと思っています。企業と金融機関、村が協力してファンドを設立することも一案です。村の資金の有効活用であり、将来、企業からの税収が見込まれるので、村民の理解も得られるのではないかと考えています。

まち・ひと・しごと創生の推進会議には地元の金融機関もメンバーになってもらっています。この推進会議をきっかけに、タイアップできることが増えることを期待しています。村からも提案しますが、金融機関からもどんどん提案してほしいと考えています。

最後になりますが、東海支店の皆さんが毎日お店の周りを掃除していることに感心するとともに感謝しています。このような取り組みが広がれば、これまで以上に村はきれいになると思います。